平成28年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　大蔵　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・無解答率が全体的に低く、問題に対して、粘り強く取り組むことができていた。 ・「書くこと」に関しての問題の正答率が低く、課題がある。「書くこと」を習慣化し抵抗感をなくす必要がある。
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、収集した情報を関連しながら話し合う問題について正答率が高い。
	努力が必要な問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことについての問題の正答率が低い。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・無解答率が全体的に低く、問題に関して粘り強く取り組むことができていた。 「読むこと」に関しての正答率がやや高く、文章を適切に読み取っていく力がついてきている。
	よくできた問題	・目的に応じて、必要な資料を選び、読み進めていく問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書いていく問題の正答率がやや低い。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・すべての問題に関して解答をし、問題に関して粘り強く取り組むことができていた。 ・「数量関係」の正答率がやや低く、特に割合に関して、基礎的な力をつける必要性があることがわかった。
	よくできた問題	・乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし約分する問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・1を超える割合を百分率で表す場面の基準量と比較量の関係を理解する問題の正答率が低い。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・無解答率が全体に低く、問題に対して粘り強く取り組むことができていた。 ・「図形」や「数量関係」の正答率がやや低く、それらの活用力を高めることが課題とであることがわかった。
	よくできた問題	乗法や除法の式についての意味を解釈する問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	グラフを読み取りそれを根拠に示された事柄を記述する問題の正答率が低い。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・ 国語科の学習では意見を発表する時、相手にうまく伝わるように話の組み立てを工夫すること。また、考えの理由が分かるように気を付けて書くことに課題がある。文章を読むことに対しては、内容を理解しながら読むことが難しいと思っている児童が多い。 ・ 算数の学習を生活に生かしていきたいという必要性は感じながらも、新しい問題に出会ったときに、チャレンジしたいという意欲や、問題を解くときに、もっと簡単に解く方法を考えることに抵抗があると感じている児童が多い。 ・ 生活習慣に関して、規則正しく起きたり寝たりすることについて課題がみられる。規則正しい生活についての大切さを児童に伝えるとともに、家庭に対しても各種の通信等で、協力を呼びかける。 ・ 規範意識に関して、課題が残った。学校のきまりを守るということを徹底し、児童に対してきまりの大切さを粘り強く指導する。 ・ 自己肯定感を感じている児童は全国平均を下回っている。また、友達の前で自分の考えや意見を発表することに抵抗感をもっている児童も多いことから、これからも全教育活動において、児童のよさを認めていく活動を充実させていく。特に特別活動や、道徳の時間を通して自分のよさを感じられるような指導を充実する。 ・ 児童の読書量は昨年度と同様に全国平均を上回っており、これまでの取組の成果が表れたと示唆される。今後も「朝の読書タイム」を継続するとともに、さらなる学校図書館の充実を図り、読書好きな児童の育成に取り組む。

・「総合的な学習の時間」では自分で課題を立てて情報を収集・整理し、発表することができると答えている児童は、全国平均と比較して高い。しかし、学習したことに関して普段の生活や社会に出たときに役に立つと考えている児童は全国平均を下回る。今後は、児童に「総合的な学習の時間」で学んだことと実際の生活でのつながりを意識させながら、児童の主体的な学びになるような学習活動を展開する。
・ 教師が学習のはじめに目標を示し、また学習を振り返る活動を徹底しているため、児童が学習で何を学んだのか実感することができている。これからも授業改善に取り組み、わかる授業作りを継続的に進めていき児童の学習内容の基礎・基本を定着させる。
・ 1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全国平均と比べて高い。家庭学習で復習はよくしているが、自ら計画したり次の学習に興味をもって予習したりする児童は全国平均と比べやや低い。今後は各通信やや学級懇談会等で学習時間の目安や家庭学習の仕方を具体的に示し、家庭と連携して指導していく必要がある。
・ 地域の行事に興味をもって参加し、ボランティア活動をすることで地域をよりよくしたいと考えている児童が全国平均と比べて高い。今後も、生活科や総合的な学習の時間、道徳等の取組とも関連付けながら、年間を通して指導の充実を図る。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○ 学力向上のための特設の時間の実施
・ 朝自習の学習の時間に「読む力」の育成を図るために、週2回（月・木）読書タイムを設定している。また、基礎学力の定着を図るために、火曜日を算数タイム、水曜日を国語タイム、金曜日を学級の実態に応じた課題に取り組む朝の学習タイムとして設定する。
・ 学力調査やCRTの結果を基に、児童の学習面での課題を分析し、ドリルやプリント学習を中心とした基礎・基本の徹底を行う。
○ 言語活動の充実
・ 学習のまとめの（振り返り）時間を確保する。
・ 国語科の学習では意見を発表する時、うまく伝わるように話の組み立てを工夫することや、考えの理由が分かるように気を付けて書くことについて習慣化する活動を位置付ける。また文章を読む時に、内容を理解しながら読むことができるように、読み取ったこと、感じたことを伝え合う場を位置付ける。
・ 算数科の学習では基礎・基本の知識を確実に習得させる学習を継続する。また自分の考えを図や式に表すことや説明を書き、相手に伝える活動を通して、算数の活用力を高めていく。
○ 総合的な学習の時間・生活科の学習を通しての学力定着
・ 各教科等との関連を重視した学習展開を意識した学習の展開を図る。総合的な学習の時間・生活科で培った力を各教科に生かし、各教科で生かされた力を総合的な学習の時間・生活科で生かすことで、さらなる学力の定着を図る。
○ 学力推進教員の取組
・ 学力向上推進教員が教職員に対して授業改善のアドバイスを行い授業力の向上を図る。また、児童に対しても、個別の支援を行うなどきめ細やかな指導の徹底をしていくことで、学力向上を図っていく。
○ 体力向上に向けての取組
・ 1校1取組である大蔵アイソメトリックの時間を設定することで、全学年児童の基礎体力の向上を意図した継続的な取組を行う

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
・ 学校だよりや学校ホームページで保護者に学校での学力向上の取組を伝えていき、学習習慣や生活習慣の改善に係わる啓発を継続して行う。
○ 家庭学習の習慣化を図る
・ 学年・学級懇談会で学年や学級の課題と現在の取組状況を説明し、保護者に対し理解と協力を得るようにする。また、個人懇談会では、個別の課題を明確にするとともに、学習習慣の定着に向け家庭の協力体制を構築しながら家庭学習を習慣化する。
・ 各学年の発達段階に応じて、学習時間を設定し取り組めるように、各種の通信で保護者へ家庭学習の重要性についての理解を促す。
・ 自主学習ノートを活用して、自分の課題に応じた学習が計画的にできるようにする。
・「家庭学習チャレンジハンドブック」を宿題等で活用するように指導し、保護者にも呼びかけ、担任がその取り組みを確認、賞賛しながら、児童の学習意欲を高めていく。
・ 夏休み・冬休み・春休みの課題として、児童の実態に応じた課題を提示し、家庭学習の定着を図る。
○ 小中が連携した学力向上・生活習慣の改善の取組
・ 中学校区小中合同研修会を開催し、児童生徒の学力向上・生活習慣の改善について協議し、共通理解を図る。
・ 小中連携教員が6年を中心に学習・生活指導を行い、学力向上や生活習慣の改善を図って、中学校への円滑な接続を促す。